人と人、組織をつなぎ、あなたの暮らしを支えます

英名第号と Support

 2025
 寒河江市

 社会福祉協議会
 広報 vol.126

特集

— NPO法人らっふると赤い羽根共同募金がつなぐもの -

バターの香りがつなげる想い

一移動に寄り添う 一

「新しい助け合い」のカタチ



らっふるのお真る。の暮らしを支える。の暮らしをすえる。

そんな

地域をつなぎ、

誰か

なぐも

担っている。 海祖協議会が 寒河江市社会 その事務局を 委員会」とし て展開され、

「お菓子を買う」という小さの後押しが込められている。の後押しが込められている。のというがいがいがいではない。の後に貼られた赤い羽根のシー袋に貼られた赤い羽根のシー

社会福祉協議会が

17

羽根

込め

た

0)

願 シ

とつ丁寧に貼る。とつ丁寧に貼る。

-ルをひとつひ&しながら赤い

苅所長。

し赤 い挑戦と つ な が る 新

思うとやる気が出ました」と草ちが地域に恩返しできる。そう赤い羽根を通して今度は自分た「普段は支援を受ける側ですが、

利用者と職員たちも「ぜひやろう!」と前向きに話し合った。寄付の仕組みそのものよりも、当かのためになる」という実感が大切だった。

の役割を果たしている。動へと生かす、社会貢献のハブ、動へと生かす、社会貢献のハブ、業の善意を集め、地域の福祉活業の再発を集め、地域の福祉活業の対象をは、市民や企 なぐ "地域福祉の活動もまた、 一方で、 とめ、必要な支援につまた、地域や企業の思、社会福祉協議会自身

見える形にしているのが、社協り、赤い羽根を通して地域福祉が、障がいのある人の工賃になが、障がいのある人の工賃になが、をがます。お菓子を手に取る行為とで生まれた地域貢献のかたち と赤 この二つの機能が重なり合うこ今回の「寄付つき商品」は、なぐ、地域福祉のハブ、である。 羽根の協働によるものだ

指定障がい者福祉サービス事業所 NPO法人 らっふる

養護学校卒業後に地元で働ける作業所が少な かったため、子供達の働ける場所を作ろうと、 保護者達の想いで立ち上げた。「たのしさいっ ぱい」という意味を込めて、漢字の「楽」(らく) と英語の「Full」(ふる)を合わせ、作業所の名 称を「らっふる」に。

障がいを持っている人達が作業所での活動を 通し、色々な人との関わりの中で成長し、思い やりの心を持った人間として、心豊かな暮らし を築いていってほしい。同時に、地域の皆さん に愛される施設に育てていきたい、という理念 のもとに、日々の支援を行っている。



〒991-0041 寒河江市寒河江字鶴田11-5 TEL/FAX 0237-85-6715 HP http://www3.ic-net.or.jp/~raffuru-hp/

草苅所長は、物語がぎゅっと てこう語る。 長は、今後の展望につゅっと詰まっている。

過ごせる環境をもっと整え、利用者が日中を楽しく安心 と整えて

人気のクッキーを寄付つき商品に

さらに、社会福祉協議会への さらに、社会福祉協議会への さらに、社会福祉協議会への るために、力になっていただく るために、力になっていただく ことを期待しています。支えて つくる存在として、私たちの取 り組みを市民のみなさんに知っ ていただきたいんです」。 た願いは、利用者の笑顔、未来 た願いは、利用者の笑顔、未来 た願いは、これからも広がり続け ていく。

いきたい。そして、利用者の工りをはじめとした活動を通して、りをはじめとした活動を通して、りをはじめとした活動を通して、少しでも利用者の収入を増やしていきたいんです」。

試て よう。」想いを受け 取

笑顔になってほしい一心で、試とは言えなかった。お客さんに「今思えば、初めはおいしい と利用者が一緒に生地をこね、味もばらついた。それでも職員、最初は形も大きさも揃わず、 る日々 焼き具合、 材料の配合を確か 当べんしい め

だったが、「障がいがあっても、資格も経験もないなかでの挑戦し、小さな作業所を立ち上げた

し、小さな作業所を立そう感じた親たちは、

市に陳情

へのスタ

-を切る。

り

生まれ育った寒河江では暮ら

「このままじ

ゃ

ともに地域で暮らしてほしい」だったが、「障がいがあっても、

「自分の子どもが安心して通えという願いが背中を押した。

行錯誤を重ねました」と、当時 行錯誤を重ねました」と、当時 行錯誤を重ねました」と、当時 を振り返る職員。 と では地域のイベントやバ 中で「らっふるのお菓子」と して親しまれている。やまがた 上産菓子コンテストで最優秀賞 (山形県知事賞)を受賞したラインナップもあり、収益の柱だ。 インナップもあり、収益の柱だ。 なものにしている。



甘い香りがただようキッチン

台のオー 夕 卜 し こたお菓子づくらーブンから

ŋ

なんだか幸せな気持ちになる

草苅所長の言葉には、今も熱がるしかなかったんです」。

作業場の奥で、焼きあがったばかりのクッキ―を並べながら、利用者の表情がゆるむ。湯気をのせた甘い香り

が部屋いっぱいに広がると、イライラしていた仲間の顔

この秋、NPO法人らっふるがつくるお菓子に「赤い

羽根共同募金」のシールが貼られることになった。地域 の誰もが知る赤い羽根共同募金と、20年にわたって地域

に根ざしてきたらっふる。その出会いは、利用者や家族

る。

そして地域にとっても新しい意味を持ちはじめている。

くれる支援者による一台の業務その始まりは、活動を応援してないのが「お菓子づくり」だ。 だ用っオ 。「これでお菓子を焼いブンの寄贈がきっかけ

も自然とほころ

「寒河江で暮らし 特に、高等養護学校の卒業後にもが通える施設は限られていた。16年。当時、障がいのある子どらっふるが誕生したのは平成 『工では暮らせ 状況が続いて ち た 0) 11

特も16に、通

「行き場がな

た。

法人らっふると

根共同募金がつなぐもの

2025.11 愛さぽーと

コーヒーボランティアが

ボランティア養成講座「おいしい珈琲で居場所作り」 から「コーヒーマスター」グループができました!上山 市にあるカフェ「狸森焙煎所」の牧野さんより、おいし いコーヒーの淹れ方を学んだ皆さん。ドリップコーヒー は、道具や淹れる人で全く味が変わるのだそう。

現在、「みんなのよりどころCOCO&(ここあんど)」 の参加者に提供する活動をしています。

10月は「オレンジカフェ だいご」に出前コーヒーマ スターとして参加!自分で淹れるのとはひと味違う特別 な珈琲を楽しみたい方、ぜひコーヒーマスターにご依頼 ください♪



♦ 依頼・お問い合せ

さがえdeできますポケット

各地区社協 との懇談会



このたび各地区社協との懇談会を開催し、地域で感 じている課題や取組について意見交換を行いました。 懇談会では多くの共通課題が話題に上り、特に「高齢 者の一人暮らしが増えており、見守りや日常生活の支 えが必要」「認知症や介護予防に向けた活動を広げた い」「引きこもりや生活に困りごとを抱えている人へ の情報が届きにくい」といった声が多く寄せられまし た。さらに「地域にどんな方が暮らしているのか分か りにくくなり、お互いの顔が見えにくくなっている」 という現状も課題として挙げられました。これに対し て「交流の場づくり」や「ちょっとした声かけ」「情 報の共有しなど、地域の皆さんができそうな取組も意 見として出されました。こうした地域の声を大切にしな がら、市社協としても地区社協や関係機関の活動を支 え、安心して暮らせる地域づくりに努めてまいります。

災害ボランテ スツトワーク連絡会研修会 を平常時のつながりづくりを テーマに開催



―にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李仁鉄さんを講師に一

災害ボランティアセンター設置訓練

一実際の動きを体験し、課題を共有一

10月5日(日)、高松小学校を会場に「令和7年度災害ボランティアセ ンター設置訓練」を行いました。朝8時に、職員やボランティアが集合。 会場では受付用のQRコード掲示、資機材の準備、ニーズ票の貼り出し など、慌ただしくも真剣な表情で訓練が始まりました。

参加者は実際の災害時を想定し、被災者役の市民への聞き取りや、活 動チームのマッチング、資機材の貸出などを実践。「現場での判断の難 しさを実感した」「連携の大切さを改めて感じた」との声もありました。 今回の訓練では、新たにデジタル受付システムを活用し、より効率的

な運営を検証。終了後は全員 で課題を共有し、次につなげ る意見交換を行いました。

市社協では、災害時に迅速 に動ける体制づくりをめざ し、今後も訓練を重ねてまい ります。



端々な募金方法の案内 令和7年度 赤い羽根共同募金 活動協力のお願い - 協力企業様には 一 く会のホームページや広報誌を通じて

企業・団体のみなさんへ

赤い羽根共同募金を活用して 地域貢献をしてみませんか

- ・寄付つき自動販売機の設置 ・社員様による募金協力
- ・会社窓口、社内イベントでの募金ブースの設置
- ・寄付つき商品の取り扱いなど

企業との連携事例

法人による募金、店頭の募金箱設置、社員様からの募金

- イオン東北株式会社 ・マックスバリュ寒河江中央店
 - ・マックスバリュ寒河江西店

・マックスバリュ高松店

寄付つきグッズ募金 取り扱い企業・団体

lj形県共同募金会奪河江市共同募金委員会

© 0237-83-3220

セブンイレブン寒河江西 根店/セブンイレブン寒 河江仲谷地店/さがえ西 村山農業協同組合(さく らんぼ会館) / 一般社団法 人 寒河江市観光物産協会

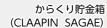
市民のみなさん

呼び掛ける活動です。



募金箱設置協力

- · CLAAPIN SAGAF
- 寒河江市立図書館
- ゆめは一と寒河江





イベント募金協力

イベントにおける募金ブース設置

寒河江高等学校/寒河江工業高等学校/お~るしばはし文化祭

街頭募金の実施

ガールスカウト山形県第9団 (11/9旧)チェリーランド)/ 寒河汀学園/ササらぎクラブ/ねっこクラブ/ さくらっこクラブ / 第五わんぱくクラブ / 第二わんぱくクラブ

詳しくは、寒河江市共同募金委員会 ☎ 0237-83-3220

图鲁为一下1,000分を 3名織にプレゼント

地域活動に参加してみませんか?

街頭募金のボランティアを募集しています。

スーパーやイベントなどの街頭で、募金を

広報誌「愛さぽーと126号」の 感想をお待ちしています。

- 1. 名前
- 2. 住所
- 3. 連絡先
 - (電話または E-mail)
- 4. 印象に残った記事 ①ページNo.
 - ②記事タイトル
 - ③感想
- 5. 今後特集してほしい内容
- 6. その他、ご意見をお聞かせください。

社会福祉協議会では、事業内容・活動状況 などを市民の皆さまへ知っていただくため、 広報誌作成に力を入れて取り組んでいます。 二次元バーコードから読み込んでいただき、 フォームに回答いただくか、またはハガキで も受け付けています。皆さまからのご意見、 ご感想をお待ちしています。

締切 2025年12月5日(金)

福祉と健康フェア2025表彰・感謝状受賞者(敬称略)

会長表彰

民生委員児童委員功労者(23名)

小畑	薫	須藤原	主一郎
佐藤	祐一	齋藤	豊
木村	二男	佐藤で)ろ子
佐藤	哲	秋場	修一
清水	章文	今野	広美
田中	修子	澁谷	幸子
髙橋	忠一	佐藤	正憲
安孫	了良子	伊藤	克博
柴橋	亘	旭	幸一
軽部	賢悦	東海村	林芙美子
那須	吉雄	兼子	健司
冨樫	清美		

●町会長功労者(5名)

髙橋さち子 山田 廣志 丹野 敏晴 丹野 厚志

- 主任児童委員功労者(2名) 土田 久子 佐藤 暁美
- 地域福祉推進員功労者(5名)

豊 菅井由美子 門脇けい子 阿部 和子 安彦 浩

会長感謝状

ボランティア活動功労者(6名・3団体)

山田 悦子 船田美佐子 宇野けい子 井田たか子 若子 後藤 美苗

ぎぼうし落語の会 点訳の会さくら バルーン団

●寄付活動功労者(1名·1団体) 鈴木 公章 玉虫エコクラブ



2025.11 愛さぽーと

活動内容 買い物の付き添いなどを 通じて、利用者の生活や家族関係、 大切にしていることを理解し、寄り 添うことを重視しています。私たち は、高齢者の外出を助け、人間らし い暮らしをサポートするという大き なやりがいがあります。

支え愛いの会 利用案内

対象となる方

- ・南部地区にお住まいで、通院や買 い物などで移動に付き添いが必要
- ・自力での外出が難しい高齢者など

をめざ

し か

てい

「柔ら

相互扶助」

年 齢 運転業務は基本的に75歳 までが目安ですが、毎年更新をする ことで80歳まで可能。

人 柄 仲間の意見を尊重し、協 調性を持って行動できる方。

活動が気になる方へ 「危ぶめば道 はなし、踏み出せばその一歩が道と なる」という言葉のように、まずは 一歩を踏み出してみませんか。お気 軽にご連絡ください。

活動範囲

・寒河江市内から中山町まで

利用方法

・事前に電話で相談ください

・継続的な活動のため、一部負担を お願いしています

(詳細はお問い合わせください)

お問い合わせ·お申し込み/支え愛いの会 代表 須藤庄一郎 電話:090-9032-8784

移動・

外出支援を通じてこ

も直結すると思うんです」れる方々の尊厳を守ることにの二つを守ることは、利用さ

協力いただいた方々へ 感謝いたします

支え愛いの会の仲間

黒田俊郎さん、丹野厚志さん、五十嵐昭弘さん

アンケートや活動周知に協力いただいた 南部地区民生委員児童委員

芦野寿美子さん、宇井裕子さん、沖津恵子さん、 高橋絹子さん、富樫清美さん、逸見寿行さん



立ち上げの協力いただいた

寒河江市社会福祉協議会

大岡恵子さん

♥アンケートの協力と指導をいただいた

寒河江市地域包括支援センター、 寒河江市健康増進課の方々

一人ではできない活動だと実イデアが生まれ、互いに励まく話し合ううちに、自然とアと話し合うがないた。しかし仲間ばと力んでいた。しかし仲間

出の価値を守るということ

出の価値」 「ひとつは、買物や通陰出の価値」への強い思い出の価値」への強い思い 。いは だが、外

「ひとつは、買物や通院、役 でできることは、自立感や自 でできることは、自立感や自 かッと、した気分転換と、目 がによって、か出によって、ス かとして、外出によって、ス かとして、外出によって、ス がによって、ス がによって、ス がによって、ス でできることは、自立感や自 でできることは、自立感や自 でできることは、自立感や自 がによって、ス ながります

す。

トフォームに育てたい自然な支え合いを育む間をかけながら、住民間をかけながら、住民 域づくり談話室」そのための基盤

間と共に、 未来

「外に出ることは、人間らし区を対象にスタートする。

うものでした。しかし現代でで助け合う、時に強制力を伴「昔の相互扶助は、村人総出

「私の1時間を差し出せば、する。 する。 また「地域は住民の力で変 してもらい、「支える側」と「支利用者にも」定の費用を負担らかい相互扶助」という考え方。 須藤さんが掲げるのは「柔 は、その入口になりたいのです」いが必要です。私たちの活動は、自発的で自然な関わり合 可能な仕組みを目指している。する関係を築くことで、 持続 えられる側」 **梁くことで、持続が互いに行き来**

「私の1時間を差し出せば、 確実に誰かの1時間を支援で きる。これが100人になれ ば、地域は確実に変わってい 様で支え合っている、と語ら 様で支え合っている、と語ら れる場所こそ、最も魅力と可 れる場所こそ、最も と話り

談話室」という語りめの基盤として、「地 ていと考え 住民同士で している。時 てといい

と 歩踏み いう思いが込められているその言葉には「お互い様」 出せば、

道がひらけ る

中である。運転だけでなく、活動を共に担う仲間も募集 「大切なのは協調性。まである。 事務や調整など役割はさまざ 知恵を

に関心のある方は、 「移動・外出支援(協最後に呼びかける。 く活動なんです」と須藤さん。出し合い、みんなでつくってい 、〃一歩だ(協力員) 歩だ

け前進《して、ぜひお電話ください」。
「無我夢中でやってきましたが、形になってくると、やりたいことが次々に出てくるものですね」と須藤さんは柔らかな笑顔を見せた。
地域のために、その一歩が、新しい道をひらくのである。

さを支える大切な営み。それができなくなることは、とても辛いこと。私も85歳になっち度は地域の皆さんに支えてもらうかもしれない。だからもらうかもしれない。だからっは支える側として関わりたいんです」。

移送ボランティアとは

道路運送法上の登録または許可が不要で、営利を目的としない送迎のボランティア

移動に寄り添う

S

活動のきっかけは

一体何者なのか」と大きな空刺を手放した途端、「自分は66歳まで勤めた須藤さん。名 白に直面し 銀行を退職後、 「やれることから」 関連会社に

足を踏み入れるきっぷだという思いが、地れをしてこそ、一人

地域福祉へ一人前の人生

かけだった

間を探して

じて付き添いを行い、安心して外出

の人の暮らしに寄り添うこと。

日常の移動に不便を感じる人を支えるため、この秋から

る。
その空白を埋めるように書きためた短歌は、2年間で
その空白を埋めるように書 び上がる。 てくれた」 「忘れていた それが自分を支えいた記憶がふと浮か と振り返る。

「移送ボランティア」の活動が始まる。

移動の先にある。日常。を支えたいんです」と代表の須藤さんは語る。

者の側から世界をみる」。ながで過ごした人生から、「兄だ。企業で4年」 だ。企業で40年近く競争のな社会福祉士の資格取得に挑んり直さなければ」と思い立ち、りがて「新しい自分をつく

「仲間は自然に集まったわけ間に声をかけていった。一人ひとりに思いを語り、仲と思える相手を見つけては、 手ボランティアや介護補助に手ボランティアや介護補助に手ボランティアや介護補助に手がった。 デジを続けながら、

単に車で送迎するのではなく、必要に応 できるよう寄り添うことを特徴としている。 「私たちが担うのは、移動そのものではな

ではなく、 してきたんです」と笑う 自分が探し、 スカ

> 動への協力は、大きな励みと、動への協力は、大きな励みとよるアンケート調査や周知活南部地区民生委員児童委員に 課題を一つずつ乗り越えるこ つした支えのもと、いっと、大きな励みと、

分にできることからかあった。その場の空気があった。その場の空気が関転できる」という言 う」と光が見えた。 gaくなり、「そうだ、った。その場の空気が一

移送サービスについて学びを深め、社会福祉協議会の職を深め、社会福祉協議会の職が、新しい縁を呼び込むきっかけとなった。その後、研修かけとなった。その後、研修の移送サービス団体の訪問へとつながり、学びと気づきが、新しい縁を呼び込むきった。とのながり、学びと気で記されば、 が が 一気 が 一気 で う言葉で 支え愛いの会 代表 須藤 庄一郎 さん

「導かれるように今の活動があると思 うんです」。福祉や地域とは縁が薄い世 界にいた須藤さん。あるときに支え合う ことの素晴らしさに気づく。持ち前の探 究心と向上心により、移送ボランティア 「支え愛いの会」を立ち上げた。

「先生のような人」かつての職場の同 僚からそう言われたのは教育実習をした 経験からかもしれないとご本人。共に歩 む仲間を大切にし、地域を支える一員に なりたい、と新たな自分と向き合う日々。 謙虚な気持ちで活動を見つめる温和な人

柄でありながら、思い立っ たら即行動する一面も。

民生委員児童委員の活 動の傍ら、市民後見人に なるべく勉強中。本が好き。

危ぶめば道はなし 踏み出せば

その一歩が道となる

vol.126

地域包括支援センターが

みなさんの地域におじゃまします!

参加者の声

私自身、高齢になったら「あれもこれもできなくなるのは仕方ない」 と漠然と思っていました。でも、一度悪くなった状態からでも、適 切な支援で、また元の状態まで回復できる可能性があることに、目 の前が明るくなりました。回復後の動画を見て、本当に驚き、もっと 多くの人に知ってほしいと思いました。

先日、各地区社協に協力いただき、 地域の代表者の皆様を対象に介護予 防研修会を開催しました。

「今できていることを続けていく こと | は簡単ではありません。日々、 体や心には小さな変化が訪れます。 その変化に気づいた時が、私たち地 域包括支援センターにご相談いただ く大切なタイミングです。

研修会では、「高齢になったら何も できなくなると思っていたけれど、回復 できる可能性があると知って希望が持

てた という声をいただきました。 民生委員児童委員や町会長の皆様に は、この学びを地域に広めていただ く役割をお願いしています。

「最近、足腰が弱って…」という 話が出たら、「一度、包括に相談し てみたら?」と声をかけていただけ たら嬉しいです。私たちは、皆さん の声に耳を傾け、一緒に考え、住み 慣れた地域で安心して暮らし続けら れるようサポートします。どうぞお 気軽にご相談ください。





高齢者の社会参加の場として、子ども達 とご飯をつくって食べる地域食堂を開催し ました。有志のボランティアスタッフと話 し合い、決まったメニューはカレーライス。 ナスやズッキーニをお好みでトッピングす る形式です。当日は、初めて包丁を持つ子 や切り方に苦戦する子がいながらも、地域 の方の知恵を借りスムーズに進みました。 途中でカードゲームやコースター作りを挟 み、最後には初対面だった参加者同士の「ま たねしという声が飛び交いました。調理と いう同じ作業をすることで自然と会話が生 まれ、地域の方にとっても刺激のある時間 になりました。

次回のCOCO&キッチンは

▶ 2026年1月8日休

スタッフ募集中です! お気軽に連絡ください!

市民福祉課 **2** 0237-83-3220

今後の予定

寒河江地区社協12月中(日程未定)

醍醐地区社協 12月5日

西根地区社協 2026年2月4日

高松地区社協 2026年2月13日

寒河江市地域包括支援センター **2** 0237-85-0896



ちょうど一年前の「つつじいろ」。

醍醐地区にお住いの菊地喜代治さん。絵を 描くのが楽しみで、描いた絵を飾ってくれる 場所を募集しました。

現在、地域の方と、事業所の方の協力により、 市内2か所に飾られています。

菊地さんも大変喜ばれて、「また描かんなね な」と、次の絵を描く意欲につながっています。 協力いただいた皆様、ありがとうございま した。

地域包括支援センターと生活支援コーディ ネーターが協力して、高齢者のみなさんの生 きがいを支えていきます。

菊地喜代治 さん



間 市民福祉課 ☎ 83-3220

間 寒河江市地域包括支援センター ☎85-0896

^{社会福祉} 寒河江市社会福祉協議会 | ☎ 83-3220・FAX 83-3221 〒991-0021 寒河江市中央二丁目2番1号 ハートフルセンター2F

